

クリニカルラダー通信(第57号)

「看護倫理」の研修が終了しています。研修の内容や学びは、部署の倫理カンファレンスに活用できる内容です。多忙な状況ではありますが、日頃の「もやあ〜」とする場面を考える機会があるといいですね。研修での学びを OJT(日頃の看護実践)につなげていってください。研修の一部を紹介します。

ラダーⅠ

入職時に、先輩看護師(既卒採用者)と一緒に研修をしています。「そのまましちゃって大丈夫?!」

患者:「またトイレにいきたくも〜」



看護師:「またしたくなってもしらパンははいてるのでそのまましちゃってください」時々見かける場面ではないでしょうか。忙しいからではなく、安静度や、患者への負担をアセスメントした結果だったかもしれません。説明が不足していたのかもしれませんが、日常の場面では多くの倫理課題があります。新人看護師がどのように感じているか、ちょっと声をかけてみてください。

ラダーⅢ



「認知症で血糖コントロール後手術予定の患者」事例を①事例の問題点②解決のための選択肢③アクションプランについて倫理的視点で「患者にとっての最善」を GW で考えました。今回は 4 分割や 4 ステップなどのツールを使用せず倫理綱領や倫理原則を参考にしました。

問題点	GW の内容
<ul style="list-style-type: none">ADLが自立している患者にセンサーマットを設置している。患者の甘いコーヒーがのみたいという電気欲求が満たされていない。センサーマットが頻回に鳴るため業務の中断が頻り。他患者への対応がおろそかになる。	<ul style="list-style-type: none">患者の思いをくみ、人工甘味料のコーヒーを1日1杯程度なら提供し、他患者への対応も検討できるか相談する。
<p>アクションプラン</p> <p>患者</p> <ul style="list-style-type: none">何層も説明し理解を促す。患者にコーヒー好きな言葉や退院後の生活や楽しみについて聞く。	<p>医師</p> <ul style="list-style-type: none">患者の思いをくみ、人工甘味料のコーヒーを1日1杯程度なら提供し、他患者への対応も検討できるか相談する。
	<p>スタッフ</p> <ul style="list-style-type: none">人工甘味料のコーヒーを1日1杯程度なら提供し、他患者への対応も検討できるか相談する。

患者のあるべき姿に向かうために、看護師はどのようなかかわりをするのか考えていきました。「研修だから優しく考えられる」という声も聞かれましたが、1年間の研修を通して倫理観を深めてほしいと願います。形式にとらわれず、気軽に倫理観をいえる、職場環境であるといいですね。受講後の取り組みが楽しみです。

2月に成果を発表する予定です。

ラダーⅡ

これまでの看護実践の中で「なにかおかしい」「患者にとってこれでよいのか」と感じた場面を事前レポートしてもらいました。レポートをもとに①患者の思い②家族の思い③看護師の思い④倫理的問題点⑤対応について話し合いを行いました。様々な事例をきいて「倫理的問題について考える機会となった」と多くの意見がありました。コロナ禍で家族とのかかわりが少ないため、家族の思いがイメージできない様子もありました。「家族の思い」にも目を向けられるよう、先輩方の支援をお願いします。また、事前に体幹抑制を体験し患者の不安や恐怖、つらさなどを経験しました。患者の安全のために行う身体抑制ですが、患者の思いは忘れてはいけないと学んでいます。



ラダーⅣ



「倫理カンファレンスを深めよう〜倫理問題について語り合う意義とは〜」について講義を行いました。「認知症の独居患者で何度も救急搬送されている」「本人の意思がはっきりしていないところでの DNR 取得」受講者の事前課題から 2 事例の倫理課題について活発に意見交換が行われました。講師の但木副師長からは「DNAR は家族の同意のことが多い。患者にとっての最善を多職種で話し合うプロセスが大事である」「生きたい、どんな形で生きたいのか掘り下げることが倫理的行動につながる」と助言があり、改めて多職種連携の重要性を学ぶことができました。研修後、部署での倫理課題に取り組んでいく予定です。是非ファシリテーターとして患者のあるべき姿に近づけるよう、倫理課題に取り組んでいくことを期待しています。所属長、副師長のサポートをお願いします。

